

城東じ・ば・子の「茶の間」における 学生による地域福祉実践研究

社会福祉学科 堀川 涼子

はじめに

人口減少・少子高齢化が進む城東地区にある空き家(津山市上之町 373)を 2015 年に大学が借り上げ、地域拠点を設定して 3 年 6 か月が経つ。(拠点名「じ・ば・子のおうち『支縁』」) この家に美作大学生 4 人(社会福祉学科 2・3・4 年生)が居住し、城東まちづくり協議会による「じ・ば・子のおうち」¹⁾ 活動への参加、さらに城東地区の様々な伝統行事活動などへの協力参加を行っている。

さらに共同スペースである「じ・ば・子の茶の間」においては「支縁」入居学生がご近所福祉・まちづくり活動や、小坂田・堀川ゼミの学生が認知症支援のカフェを開催する等、地域福祉実践活動を行っている。

注 1) 「じ・ば・子のおうち」とは

少子高齢化が進む城東地区において、子どもと高齢者等世代を超えたつながりを作り、地域の課題解決をめざすことを目的に、2012 年から行ってきた「じ・ば・子のおうち」プロジェクト。構成員は城東まちづくり協議会地域福祉事業部を母体とし、津山市社会福祉協議会・地域包括支援センター、津山市健康増進課、そして美作大学社会福祉学科自主ゼミである。2018 年度には自主ゼミ活動として 7 年目を迎え、初代から隔学年で関わってきた学生は、4 代目の 3 年生 7 名が活動を行った。

1. 城東地区の概要 (2018 年 1 月 1 日現在 津山市統計書より)

津山市城東地区は津山のシンボル鶴山城の東に位置し、北は丹後山、南は吉井川にはさまれた地区である。13 町内会からなり、人口は 1,248 人、世帯数は 634 世帯、高齢化率は 45.8%、年少人口比率は 9.3%であり、市内でも少子高齢化率の高い地区である。旧出雲街道沿いには古い町並みが並び、伝統的重要建造物群保存地区に選定されている。観光地としての整備が進む一方で、丹後山にかけての急な坂道や狭い路地が多く、空き家が目立ち、昔ながらの日常生活を扱う商店も減り、生活に支障のある高齢者も少なくない。

2. 「支縁」学生によるご近所福祉まちづくり活動

支縁入居学生の 2018 年度の主たる活動は以下の通り。

- * 毎月城東まちづくり協議会定例会へ出席
- * 毎月じ・ば・子のおうち運営委員定例会出席
- * 毎月第 1・第 3 土曜日 子どもの居場所事業への参加

- 4 月 07 日 さくらまつり 城東事業参加
- 5 月 10 日 じ・ば・子のおうち『支援』新入居者歓迎会
- 5 月 20 日 城東地区空き家 Café オープン参加
城東まちづくり協議会総会
- 6 月 03 日 町内清掃参加



7月22日 第三回縁むすび交流会

この交流会は、支縁の入居学生が企画したもので、今回は三回目の開催である。切り絵、消しゴムハンコ、折り紙を作成し、参加者全員で一つの絵を完成させた。また、一人一人が思い思いの作品を作成した。作業中には、学生と地域住民の会話が多くみられ、交流を深めることができた。学生からは「三回目の交流会では、初めての作業をしながらの交流会で話題にことがかかなかった」、「新入居者も住民との交流が多くみられ、打ち解けていた場面がみられた」、「交流会という場が地域住民と学生との間をつなぐものとなっていったらと思う」という声も上がり、学生の意気込みが感じられた。



8月25日 納涼祭 わっしょい津山 参加

11月04日 城東むかし町参加



12月26日 第一回 (上之町)三丁目忘年会

「支縁」がある上之町三丁目町内会には、住民が集う公会堂がなく、これまでは会合等も町内会長の自宅で行っていた。そのため気軽に集まる機会が少なく、少子高齢化の中で交流の希薄化が見られた。そこで「茶の間」に集うことにより、お互いの交流を深めるために学生が忘年会を提案し、近隣住民と鍋を囲んだ。参加者からは、これからもこのような機会を作りたい、と喜ばれた。

2019年2月25日 四年生送別会



3月25日 理事長主催食事会 (退去者の送別および新入居者との顔合わせ)

4年生が2人卒業により退去となり、新たに2019年度より新2年生が1名入居することが決まった。

3. 認知症支援「おあしすカフェ」の開催

小坂田・堀川研究室の3年ゼミ生合同で、津山市認知症の人と家族の会「おあしすの会」との共催による認知症の本人・家族支援の一つ「オレンジカフェ」を開催している。現在、津山市には約3,800人の認知症の人が暮らしている。こうした人やその家族は様々な悩みや苦しみを抱え、地域の中で孤立した生活を余儀なくされている。このため、たとえ認知症になっても、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていくための支援として居場所づくりが必要となっている。こうした居場所づくりの取り組みとして、「茶の間」を活用して認知症カフェ「おあしすカフェ」を毎月1回第3金曜日に開催した。(8月2月を除く計10回)

2018(平成30)年度 (18年4月～19年3月)

	ご 来 所 者 内 訳(人)							来所者計(人)
	①当事者(本人)	②介護家族	③地域住民	④福祉系専門職	⑤美作大教員学生	⑥おあしすの会	⑦その他	
合計	46	113	41	19	52	56	22	349
平均	4.6	11.3	4.1	1.9	5.2	5.6	2.2	34.9
前年度平均	2	5.5	3.2	1.3	5.9	4.8	1.8	24.3

2017年度とその前年16年度の平均参加人数はほぼ同数だったが、2018年度は10人増加し、毎回、部屋が狭いと感じるほどの盛況振りだった。さらに本人や家族の参加が倍以上増えていることから、おあしすカフェの本来の目的である「認知症の人と家族のための」カフェになってきていることを実感している。一方で、地域住民や専門職等の見学・視察の数は減り、広く関心を高めることにも努力をする必要があると考える。その一つの取り組みとして、9月の世界アルツハイマーデーに、津山市地域包括支援センター(以下、包括)が主催する『認知症カフェパネル展示』に参加した。さらに包括とおあしすカフェの母体である津山市認知症の人と家族の会「おあしすの会」と小坂田・堀川研究室が合同で、アルツハイマーデー啓発のチラシ配りや津山城のオレンジライトアップを行った。



4. 成果と今後の計画

1) 支縁の入居学生による町内会のつながりづくりと高齢者支援

上之町3丁目には「公会堂」のような集会所がないため、町内会の役員会や総会は長年会長宅で行われてきた。そのため、これまで住民同志で集まる機会は多くなかった。そこで、フリースペース「茶の間」を活用することにより、気軽に集まれる機会を増やすことができたと言える。

「縁結び交流会」の開催により独居あるいは日中独居の高齢者が地域で集まる居場所を求めていることが明らかとなった。

現在、津山市が進めている小さな地域の居場所「ふらっとカフェ」を「茶の間」で2019年度より定期的開催する予定である。

2) 小坂田・堀川研究室と他団体の協働による認知症高齢者や介護家族支援

津山市内にも認知症の方が、約3,800人いる（推計）とされ、今後ますます増加すると考えられる。このような中で、認知症の方やそのご家族が安心して暮らしていける地域づくりが求められている。

そのために気軽に話ができる場所、悩みが言える場所、専門職に相談できる場所として「認知症カフェ」がある。

おあしすカフェの効果を下記の6点にまとめた。

- ①参加者同士の共感の場。
- ②ご本人さんのほっとする場。
- ③男性介護者の語らいの場。
- ④家族を看取った人の憩いの場。
- ⑤家族会員や地域の人々の活躍の場。
- ⑥学生の地域福祉実践の場。さまざまな場を提供している。

これらの取り組みは、津山市地域包括支援センターが2019年度に組織化した「アールツハイマーデー実行委員会」に学生が委員として2人参加することにもつながっている。

以上二つの取り組みから、「地（知）の拠点」があることにより、さまざまなつながりの中で、学生の地域福祉実践力が高まっていると考える。